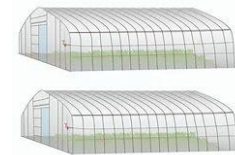




ニラの主な病害虫防除対策について

ニラで問題となる主な病害虫のうち、茎葉に発生する病害虫には、さび病、白斑葉枯病、ネギアザミウマ、ネギアブラムシなどがあります。さび病は、梅雨や秋の長雨の時期に発生が多く、白斑葉枯病は施設栽培で秋～冬季に発生しやすい傾向で、アザミウマ類やアブラムシ類は春～秋季にかけて発生してきます。

また、土壌病害虫では、乾腐病、白絹病、葉腐病は比較的高温期に、ネダニ類は年間を通して被害が発生します。これらの病害虫が多発生した場合は、生育不良や商品価値の低下、大きな減収を招いてしまいますので、事前の予防と早期発見、早期防除に努めてください。



防除のポイント

- 1 降雨が続く場合は、さび病の発生（感染から発病までの潜伏期間は10日くらい）に注意し、予防散布を行います。
- 2 保温開始後、ハウス内がやや低温で多湿が続く場合には、白斑葉枯病の発生に適した条件になります。日中はできるだけ通風換気を行って、除湿に努めましょう。また、薬剤散布を行う場合は、夕方までにはニラ葉面が乾くように、日中早めに行います。
- 3 さび病や白斑葉枯病が発生した葉を捨て刈りする場合は、それらが伝染源にならないよう圃場周辺に放置せず、適切に処分しましょう。
- 4 乾腐病や白絹病、葉腐病の発生した圃場は、ガスタード微粒剤やキルパー等で事前に土壌消毒を行い、発病後には下記の薬剤を参考に灌注または散布により発病を抑制することが必要です。
- 5 アブラムシ類やアザミウマ類の飛来源となる圃場周辺の雑草は、常に除草に心がけ、圃場衛生に努めましょう。
- 6 アブラムシ類は萎縮病を、ネギアザミウマはえそ条斑病のウイルスを媒介しますので、生育初期からの防除が必要です。

表1 ニラ生育期におけるさび病、白斑葉枯病の主な防除薬剤 (令和5年10月19日現在)

薬剤名	さび病	白斑葉枯病	その他	希釈倍率・施用量	使用時期 / 使用回数	分類
アフエットフロアブル	○	○	白絹病	2,000倍	収穫前日まで / 2回以内	7
ストロビーフロアブル	○	○		3,000倍	収穫前日まで / 3回以内	11
オンリーワンフロアブル	○			1,000~2,000倍	収穫14日前まで / 3回以内	3
セイビアーフロアブル20		○		2,000倍	収穫7日前まで / 1回	12
ファンタジスタ顆粒水和剤		○	褐色葉枯病	3,000倍	収穫前日まで / 3回以内	11
ポリオキシンAL水溶剤		○		1,500倍	収穫14日前まで / 1回	19
トップジンM水和剤		○	乾腐病	1,000倍 (3ℓ/m ² 灌注)	収穫21日前まで / 1回	1
Zボルドー		○	株腐細菌病、軟腐病※	500倍	- / -	M1

注)表1及び表2の分類欄には、FRACコードを記載しました。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

※ 軟腐病は500~1000倍

表2 ニラ白絹病、葉腐病の生育期における主な防除薬剤 (令和5年10月19日現在)

薬剤名	白絹病	葉腐病	希釈倍率および使用法	使用時期 / 使用回数	分類
バリダシン液剤5	○	○	800倍	刈揃え前まで / 3回以内	U18
リゾレックス水和剤	○		1,000倍 (3ℓ/m ² 株元灌注)	収穫21日前まで / 2回以内	14
フロンサイド粉剤	○		20kg/10a (株元散布)	収穫30日前まで / 1回	29

表3 ニラ生育期におけるアブラムシ類、アザミウマ類、ネダニの主な防除薬剤 (令和5年10月19日現在)

薬剤名	アブラムシ類	アザミウマ類	ネダニ類	希釈倍率・施用量	使用時期 / 使用回数	分類
モスピラン顆粒水溶剤	○	○		4,000倍	収穫前日まで / 3回以内	4A
ダントツ水溶剤	○	○		2,000~4,000倍	収穫3日前まで / 3回以内	4A
アドマイヤー1粒剤		○		4kg/10a (株元散布)	収穫30日前まで / 1回	4A
ディアナSC		○		2,500~5,000倍	収穫前日まで / 2回以内	5
リーフガード顆粒水和剤		○		1,500倍	収穫7日前まで / 2回以内	14
トクチオン乳剤			○	2,000倍 (3ℓ/m ² 株元灌注)	収穫21日前まで / 1回	1B
ランネット45DF		○	○	1,000倍 (1ℓ/m ² 灌注)	収穫21日前まで / 2回以内	1A
アブロードフロアブル			○	500~1,000倍 (1~3ℓ/m ² 株元灌注)	収穫14日前まで / 1回	16
ネコナカットフロアブル			○	1,000倍 (3ℓ/m ² 株元灌注)	収穫7日前まで / 1回	10B

注)分類欄には、IRACコードを記載しました。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 News は JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。